

岡山県障害者（児）施設サービス自主評価結果（公表用）

施設名：デイセンターまにわ

施設所在地：岡山県真庭市下市瀬653番地

施設種別：生活介護・就労継続支援A型

運営主体 社会福祉法人 慶光会

施設長名：森岡 大輔

評価月日：令和8年3月25日

評価項目（中項目）	評価結果
I-1 理念・基本方針	評価：A 年度当初の全体職員会議で職員に対して周知を図っている。外部に向けてはホームページやパンフレット等により周知を図っている。また、事務所内に事業指針と倫理綱領を貼り出しており、法人職員としての基本姿勢を忘れないようにしている。
I-2 計画策定	評価：A 法人の事業方針を基に、事業所の重点課題や具体的な取り組み内容を事業計画に記載している。 支援員会議で職員に周知し、定期的の実施状況を振り返っている。
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	評価：A 職務分掌にて管理者の役割や責任を明示している。 現場職員とコミュニケーションを図り、意見や想いを言いやすい職場環境づくりに努めたことで、適切な報告や改善策の実施が図られた。
II-1 経営状況の把握	評価：B 事業所の経営状況については、毎月の管理者会議にて経理部から共有が図られている。 予算執行についても適切に執行できるよう努めており、経理部と調整しながら進めた。
II-2 人材の確保・養成	評価：B 人事部が中心となり、職員教育システムを取り入れており、計画的に職員教育が図られている。また、人材確保のため働きやすい職場環境づくりを行っており、有給休暇の積極的な取得や男性職員の育児休暇の取得を推進している。 外部研修への参加の呼びかけは行っているが、積極的な参加には至っていない。

Ⅱ-3 地域との交流と連携	評価：A 地域ふれあい祭りを開催し、地域住民との交流を図った。チラシの配布等で地域住民と直接話をするきっかけ作りができた。
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	評価：B 全職員が人権擁護、虐待防止に関するセルフチェックを実施し、自身の支援の振り返りを行った。 また、虐待防止委員会を中心に虐待防止研修を開催し、虐待に対する意識向上を図った。
Ⅲ-2 サービスの質の確保	評価：A 定期的なケース会議を開催し、困難ケースへの対応を図った。また、忘れられがちな落ち着いているケースについても会議を行うことで、改めて本人を理解するきっかけ作りができています。 日々の状況については、支援記録システムを活用し、記録と共有を図った。
Ⅲ-3 サービスの開始・継続	評価：B 見学や体験の希望にも随時対応しており、サービス利用開始時には契約書、重要事項説明書等の資料を提示し、分かりやすく丁寧な説明を行っている。 就労継続支援A型では、見学のみで利用を開始され一週間と経たずに終了してしまったケースもあるため、体験した上で希望を聞くよう改善を図っている。
Ⅳ-1 利用者に応じた個別支援プログラム	評価：B 本人、保護者のニーズの把握に努め、個別支援計画を策定している。また、連絡帳を活用し事業所や家庭での様子を相互に共有することで、信頼関係の構築に努めた。
Ⅳ-2 日常生活支援サービス	評価：B 作業工賃を支払うことで達成感を得られるよう取り組みを行っている。作業工賃の中から外食や買い物をする機会を計画している。いくつかの候補を提示することで、利用者自身が選択する機会が得られるよう努めている。
V-1 生活環境の整備	非該当。
Ⅵ-1 緊急時の対応	評価：A 法人で災害時BCP、感染症対応BCPが策定され、有事の際は各BCPに沿って行動できるよう整備されており、毎年見直しを実施している。 年2回の避難訓練と年1回の救急蘇生法研修を実施している。
Ⅶ-1 就労意欲の醸成	評価：B 困りごとや心配事の相談にはすぐに対応し、不安定な状態になることを未然に防ぐよう努めた。また、日常的なコミュニケーションを図ることで、利用者の状態把握に努めた。 出来ていることを評価することで、本人が自信を持ってもらえるよう取り組んでいる。

* 着眼点の項目等を参考に、具体的な実施（達成）の状況や、未実施の場合はその理由など評価における根拠とともに、今後の改善計画（方針）なども記載してください。

* Ⅶ-1 就労意欲の醸成」欄は、授産施設のみが該当します。